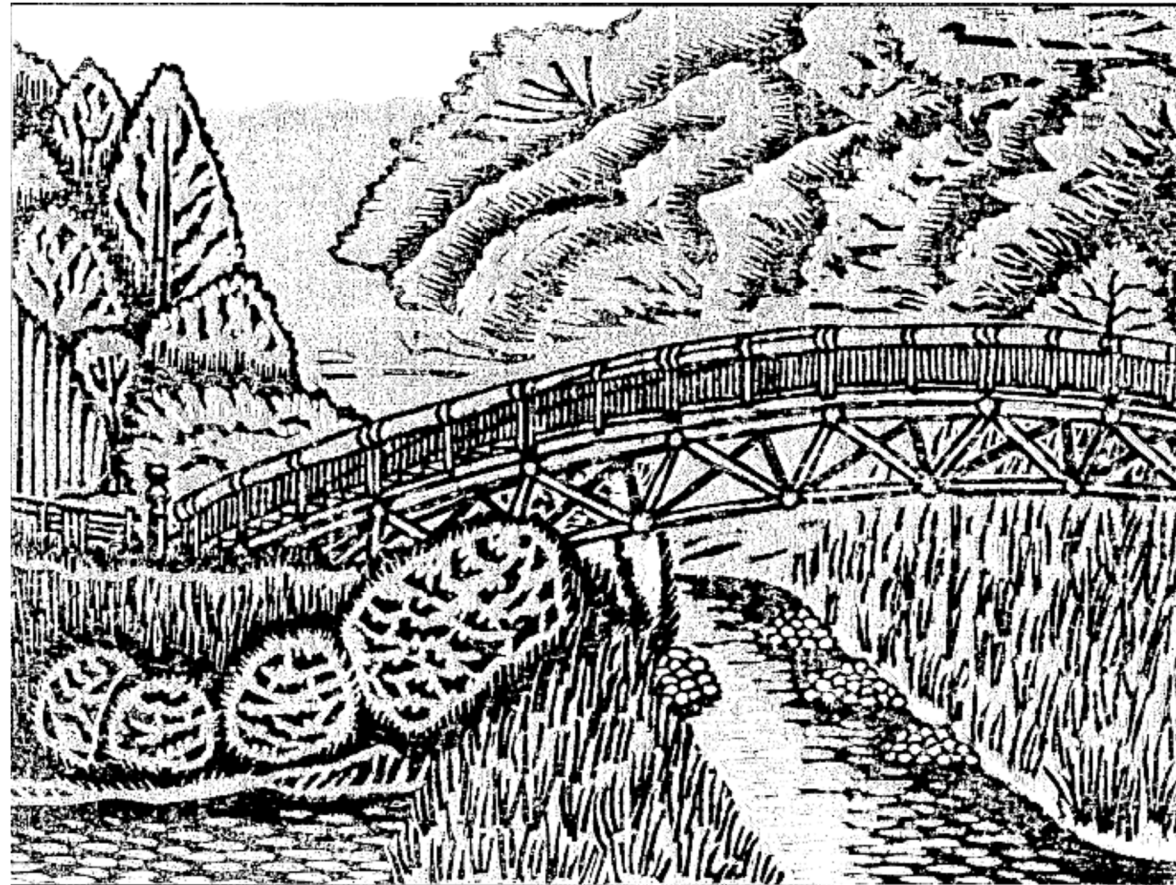


# いたちかわらばん

通刊 91 号 颯川・狹川 / 川原番・瓦版 (23 夏号)



【版画 宗森英夫 通刊 14 号の版画を使用】 (扇橋)

## 扇橋に思うこと

いたち川は時代の要請で計画的に改修され、新しい橋が架けられ、区の広報で名前を公募した時に赤い橋を見て扇を連想しました。扇は、鳥が羽を両側にトビラのようについて風をおこす意味で、新しい橋の上で涼風に吹かれたい思いを込めて応募したところ「扇橋」が命名され、同一の名前で応募した2名が開通式に招かれました。「おおきはし」と表示がある親柱の中に当時10才の本郷小学校生徒が成人するときに開く予定のタイムカプセルが入っていると、その時間きました。

考える視野を宇宙に広げてみると自然界は生命の誕生以前に山ができて、水は高い位置から低い位置へと移動する間に山を削り川となり、大自然は循環しています。生まれた命は自然環境の中で、相互に関わり合いながら、それぞれ特有に適応・変化・進化しながら、独自の能力を備えているように感じます。

不思議に思うと同時に、現在人間が研究を続けることで解明されていくことに驚き、これからどうなっていくのか、どうなれば・・・と生命の旅を受け継いでいく責任も覚えます。

「いたちかわらばん」を読み返してみると、小学校で総合学習の中に先生方や子どもたちの参加があり、ふるさとの思い出と共に多くの地域との交流があります。これからも多世代・他地域の声を反映し続ける場としての活用を望みます。

橋は、こちら側とあちら側をつなぎ、心と心が以心伝心してふるさとの原体験が伝承され、心豊かに暮らせる社会であってほしいと思っています。(うぐいす)

## 読者からのたより

### 川の中の石は「小菅ヶ谷殿館」の遺跡かも？

通刊 89 号の「いたちかわらばん」の「川の中の石や岩は？」の投書を拝見しました。私も疑問に思い、いろいろ調べていて、ある人からネットに「小菅ヶ谷殿館」という記事があることを知らせてもらいました。さらに、埋蔵文化財センター（野七里）発行の「埋文よこはま」45 号が栄図書館で配布されていました。二つの資料を突き合わせると、現在の JR 本郷台駅周辺から環状 4 号線ぐらまでの広い地域に小菅ヶ谷殿館があったが、戦時中に、ほぼその全域が第一海軍燃料廠の用地となり、地形が改変された。その開発前には、庭園らしき石積遺構が残っていた、とあったのです。

実は私はいたち川兩岸の遊歩道を散歩道としており、巨石の列には想像を掻き立てられてきました。平たい石の中央に丸い掘り込みがある。大宰府や奈良の遺跡でも見た建物の礎石ではないか。大きな石を不自然に削ったようなところがある。石垣を組むための細工ではないか。区役所裏の橋の下に、十個近くの石が丸く並べてあるのは庭園の名残を再現したのではないか。そんな想像を掻き立てられてきました。

戦前の、海軍燃料廠ができる前の全景をうかがえる写真か、風景画がどこかに残っていないものか。鎌倉に近いこの地の、かつての姿を知りたい気持ちが膨らみます。部分的にでも再現できないでしょうか。

M.H

### 小菅ヶ谷殿館について

「小菅ヶ谷殿」は鎌倉時代の三代執権北条泰時の娘の邸宅があったところで、高い塀で囲まれていたことから高塀地区と呼ばれていたと言われております。昭和 13 年に海軍の燃料研究所がつくられその後「第一海軍燃料廠」となり、終戦後は米軍 PX となって物資の集積場となっていました。が返還され現在に至っております。

### 明治 35 年の地図



白山  
石灰の露出した丘が確認できます。城山橋の名前の由来は白山からとか、城らしき建物があったことなど諸説あります。

### 川の中の巨石！！

川の中の石は歴史的なものではなく、昭和 40 年代には宅地開発が進み河川が大変汚染され、河川の環境復元を水の自浄作用を促進させるために置かれた石類は他の地域から産出された石材であるようです。(水・人・子)

## ☆小菅ヶ谷北公園ウォーキング☆

当公園は栄区の最北にあり蜚が生息する自然豊かな緑地で丘の上から富士山の眺めが良いところです。

日時：令和 5 年 9 月 19 日 (火)

集合場所：JR 本郷台駅前

集合時間：10:00

JR 本郷台駅前 (10:18) →バス移動 (江ノ電)

→見晴台下車 →小菅ヶ谷北公園「自然観察ゾーン」

散策→「利用者拠点ゾーン」トイレ休憩→「散策ゾーン」

→「利用者拠点ゾーン」昼食休憩 (解散予定)

\*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

参加費：100円 (保険料等)

持ち物：飲み物、雨具、昼食 (自由)

参加人数：20名 (先着順)

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで

住所・氏名・ふりがな・電話番号を明記の上、

令和 5 年 8 月 31 日 (木) までに下記に応募

して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19

(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127

(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係

※内容については、和久井 (いたち川 OTASUKE 隊、080-3498-0552) まで

発行年月

2023 年 6 月

通刊 91 号

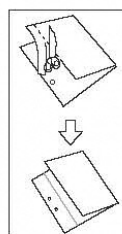
## 発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力：栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です





## 「いたち川の水源」 第5弾!!

いたち川の水源として新橋付近で合流する赤坂川の水源となっている栄区の北部にある「小菅ヶ谷北公園」を紹介いたします。当公園は風致公園として指定管理者によって管理されています。

### 小菅ヶ谷北公園の管理体制

管理の取り組みとして、ハード面(維持管理)、ソフト面(各種イベント・教室)まで、多様な取り組みを地道に積み上げ、人々の暮らしに“潤い”と“スパイス”をもたらす公園として、

◎みどり・自然について学び、体験できる公園、◎地域のひとが積極的に関わり、支える公園、◎健康増進・体力づくりができる公園、◎災害に強く、災害時に役立つ公園

以上の目的をもって、横浜市の指定管理者として管理運営を行っていることがホームページに記載されています。

(横浜市の公園 小菅ヶ谷北公園の項による)



### 小菅ヶ谷北公園

当公園は栄区の北方向にあり広さ 9.9ha で、港南区・戸塚区に接しており、戸塚の舞岡公園とともに広大な緑地を形成しています。交通は JR 本郷台駅より小菅ヶ谷北公園行のバスで 20 分位で行くことができます。いたち川の右支川としての赤坂川の水源としても重要な緑地です。

### 赤坂川 (公園区域外)

赤坂川は、いたち川の新橋の右岸に流れ込む河川で現在はほとんどが暗渠化され地表で確認できる場所は、西本郷小学校の北側にオープン河川を確認できる程度です。その上流は本郷台小学校南側から長光寺前を流れ桂町戸塚遠藤線を横断して旧道沿って当公園に向かっていきます。

現在では、栄区水再生センターの処理場をバイパスにして警察学校の橋の右岸に分水されています。

### 自然観察ゾーン

谷戸の名残があり湧き水があり、散策路の周りには田んぼの跡が湿地帯となっており、カエルや、トンボ、ホタルが飛び交うことが確認でき、生物の食物連鎖が形成されていると思われます。

トンボの種類としては、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、オニヤンマ、イトトンボ等、セミの種類は、ニイニイゼミ、ヒグラシ、アブラゼミなど、カエルの種類は、シュレーゲルアオガエル、ヤマアカガエル、ニホンアマガエル、アズマヒキガエルなど、そのほかにも蝶類、鳥類などが確認されています。

### 散策の森ゾーン

利用者拠点ゾーンから急な階段 217 段を上りきると開けた広場と富士山ビュースポットとなっています。野鳥のさえずりを楽しむことができ、野草や樹木を観察することができます。樹木の種類としては、スギ、ヒノキ等針葉樹林、ケヤキ、イヌシデ、コナラ、クヌギ、カエデ等落葉広葉樹林から形成されています。

### 利用者拠点ゾーン

管理事務所があり公園全体の管理運営を行っています。レストハウスには自動販売機が設置されており飲料水等を調達でき、広場にはバーベキューができる施設があります。車の駐車場(有料)も完備されトイレが設置されています。広場の周辺は茶畑になっており山側には湧水による池がありカエルが産卵してオタマジャクシを観察することができます。散策路の拠点になっていますのでベンチで休むこともでき野鳥のさえずりを聞くことができます。

### 未整備区域

当公園は未完成で未整備区域が多くあり、自然観察ゾーンと散策の森ゾーンが連結されていないため旧道を歩いて利用者拠点ゾーンを経由しなくてはなりません。

### 舞岡公園への散策経路

戸塚区の舞岡公園には散策の森ゾーンの北口から北方向に 10 分程度で入ることができます。当公園を縦走すれば横浜市営地下鉄「舞岡駅」に行くことができます。

\*紹介の生物・植物は 2017 年「小菅ヶ谷北公園のいきもの」より (水・人・子)

### 編集後記

いたち川の水源となる緑地はほとんどが市民の森などによって地元の人たちによって維持管理を行っておりますが、今回紹介の「小菅ヶ谷北公園」は指定管理者が管理運営を行っていますので、有料のバーベキュー施設、駐車場があるのが特徴です。 (水・人・子)

ふるやとの川の思い出

『ふなつこ』・『ふなつこ』の採り

私の故郷は秋田県です。小川は雄物川へ合流します。

横手盆地の真ん中あたり、周りが見渡す限り稲作の田んぼ、東方の奥羽山脈から陽が昇り、西方には出羽丘陵の山々さらにその奥に鳥海山が眺められ、夕景色になります。この鳥海山はご承知の通り噴火でできたコニーデ火山で富士山と同じです。鳥海山の方角・容姿は、栄区から見える富士山にたいへん似ています。

「嘘でね、そっくりだなんし、ぜひ見に来てたんしえ」(訳)嘘ではありません、良く似ていてそっくりです、ぜひ、横手にお越し下さいませ」と、つい、方言交じりでふるさと自慢のご案内をしてしまいました。

さて本題の、七十数年前の少年のころの、「どじよっこ・ふなつこ」ざっこ採りの始まりです。当時の小川は、というより水路は土で出来ており、岸边には草が生え、魚など水辺の生き物の種類も多く、生き物が住む良い環境であったのです。田んぼはもちろん、盆地の集落の家の両側にも、川はいくつもあり、南から北へと流れ、数km先の雄物川へと繋がっています。

魚釣りの絶好の場所は何と言っても「毘沙門堰」という堰でした、川幅 4〜6 m、水深 2〜3 mほどあり、小中学校にプールの無い時代でしたから、夏は、村落の子どもたちの水泳ぎの人気の場所でした。

鮒は 5 cm から 20 cm ほどの大きいもので、良く釣れました。時には鯉や鯰の尺物(30 cm 以上のサイズの魚の呼称)が釣れることもあり興奮しました。

鯉はとても利口で、釣り上げるのは容易ではありませんでした。釣りの際に障害物となる杭や藪や藻などは片付けておくなど、水泳ぎ時は安全のほかに、釣りの時のことも考えて工夫していました。

雪が解け、春。田植えが済み、田に水張りがある頃は「ナマズ突き」です。夜になり、ナマズが小川を溯上してきます。アセチレンガス灯で照らし、柄が 2 m ほどのヤスを使います。40 cm 以上もある大きいナマズを突いて仕留めるには大人の腕力が必要です、一撃で決めないと逃げられます、激しく暴れます、まさに格闘そのもの、迫力があり、可哀そうなど言っではいられません。串焼きにして保存食にします。

ドジョウ獲りは、筒カゴ状の築(やな)を、夕方に沼に仕掛け、翌朝に引き上げます。数個の築で、ドジョウが一升山盛り(約 2 斗)獲れました。この一帯は泥炭を掘り終えた跡が沼になっており、ジュンサイなどが生えて、家でおかずには喜ばれました。

まさに昭和三十年代、これから土地改良事業や圃場整備事業が開始されようとしていた時代です。

川や沼の水は農地への灌漑に大切であることを子どもの頃から、きっちりたたきこまれました。

(うめおきな)